

2025年度 審査研究課題等一覧表

番号	研究課題等	職名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2025-01	間質性肺疾患に対する抗線維化薬治療実態と臨床経過の調査	院長	白井 正浩	承認	1	医局	2025/3/31	4/22	4/22		間質性肺炎（ILD）の中でも、突発性肺繊維症（IPF）は最も頻度が高く、予後も不良である。IPFの予後因子として、経年的な肺機能低下による慢性呼吸不全や急激に呼吸不全が進行する急性増悪（AE）が知られている。IPFの治療には用いられる抗線維化薬は経年的な肺機能低下を抑制し予後を改善することが示されている。また抗線維化薬はAEを抑制するとの報告もある。加えて、抗線維化薬はIPF以外のILDの経年的な肺機能低下も抑制することが明らかになった。そのため本研究では、実地臨床での抗線維化薬を使用する間質性肺炎患者さんの臨床経過を前向き研究より明らかにする。
2025-02	重症喘息に対する治療実態と臨床経過の調査 前向き研究	呼吸器アレルギー科 医長	大場 久乃	承認	1	呼吸器アレルギー科	2025/3/31	4/16	4/16		重症喘息患者における患者背景・臨床経過を前向きに多施設共同で調査し、その結果を用いて、重症喘息のうち、コントロールされている症例とコントロールされていない症例を比較し、患者背景や依存症、臨床経過の違いを検討し、難治化に関与する因子を見出す。重症喘息における年齢・COPD合併・併存症等を加味した臨床病型（フェノタイプ）を明らかにする。多施設共同調査の調査結果を用いて、抗体製剤や長時間作用性抗コリン薬の有無など各治療法の有効性と安全性を比較検討し、保存血清や血漿を用いて、重症喘息の予後予測やフェノタイプ分類に有用なバイオマーカーを探索する。
2025-03	浜松地区の感染症対策向上加算1及び外来感染対策取得施設における抗菌処方薬及び耐性菌同行の観察研究	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2025/4/7	4/16	4/16		浜松地区では、8つの病院が感染対策向上加算1を取得し、同地区の感染対策地域連携を担っているが、加算2及び加算3取得施設、さらに医師会に所属する診療所やクリニックにまで範囲を広げ国立国際医療研究センターの提供しているJ-SIPHEやANR臨床リファレンスセンターの提供するOASISあるいはMicrosoft formsを用いて作成したサーベイランスプラットフォームを活用して抗菌薬使用量や耐性菌検出の変化を調査する。本研究では、抗菌薬適正使用化において有効な介入方法を検討することを主たる目的とする。本研究では、施設間の違いに加え、診療科間の抗菌薬処方量・率が当該地区の耐性菌検出率に影響を及ぼすことを目的とする。
2025-04	SSPE診療の質の向上のための全国調査	脳神経内科医長	鎌田 皇	承認	1	医局	2025/4/11	4/22	4/22		本研究では、現時点でのSSPE患者の把握、および新規発症患者の前方視野的な把握により、診断、治療の課題を明らかにすることを目的とし、麻疹ワクチンの高い接種率の維持の重要性を社会に周知するとともに、難病であるSSPE診療の質の向上につなげることを目的としている。
2025-05	漢方薬の併用による副作用の実態調査	調剤主任	杉山 堯紀	承認	1	薬剤部	2025/4/16	4/22	4/22		院内の診療において漢方薬が多く処方されている。漢方薬は、低カリウム血症や間質性肺炎、肝障害などの副作用が報告されているが、これは漢方薬単剤によるものである。漢方薬は、数種対の構成生薬を組み合わせて精製しているが、異なる漢方薬であっても同じ生薬を使用して精製していることもあり、漢方薬同士の併用は副作用が起きやすいと考えられる。当院は、複数の漢方薬を併用している患者も多くいるため調査を行いたい。
2025-06	間質性肺疾患患者（ILD）の6分間歩行試験における理学療法士の関わりを考える	理学療法士	佐藤 史明	承認	1	リハビリテーション科	2025/5/21	5/28	5/28		令和7年3月から令和7年4月までに当院に入院された間質性肺疾患患者において、理学療法士が6分間歩行試験中の観察から、息苦しさの要因を得て、理学療法を実施し、呼吸困難感の前後比較をVASを用いて評価した患者に対し、治療を行った結果をまとめることで6分間歩行試験における理学療法士の関わりを考える。
2025-07	結核モデル病床の隔離下における心理状態	看護師	市川 結香	承認	1	看護部 6病棟	2025/6/16	6/25	6/25		患者は、結核に罹患し突然生活環境が変わる。入院中は個室隔離下で過ごすことを余儀なくされており、患者に与える影響は多大であると考えられる。本研究では、結核患者を対象とし、突然隔離された環境の中で治療を行うことになり、患者がどのような事を思い、考えているのかなど、隔離が与える心理的影響について、インタビュー形式を用いて明らかにすることを目的とする。
2025-08	神経難病患者に対する褥瘡ケアにおける看護師の介入と、患者-看護師間の相互関係が治癒および再発予防に与えた影響の検討 - 2事例の振り返りから-	看護師	濱崎 菜月	承認	1	看護部 4病棟	2025/6/16	6/25	6/25		今回、褥瘡が治癒し再発も認められていないコミュニケーションが可能な神経難病患者2名の事例を振り返る中で、看護師による継続的な介入と、患者の意向に沿ったポジショニングや関わりの積み重ねが、褥瘡の治癒に大きく寄与したと考えられる経過が確認された。そこで本研究では、記録及びアンケートから得られる形式知と、記録と言語化されていなかった暗黙知を掘り起こすことで、患者-看護師間の相互関係が褥瘡の治癒及び再発予防にどのように関与したかを明らかにすることを目的として取り組んだ。
2025-09	重症心身障害児（者）病棟で感じる職務上の困難と必要とする支援～中途採用や部署異動で配属された看護師に焦点を当てて～	看護師	丸山 法夫	承認	1		2025/6/23	6/25	6/25		中途採用者、部署異動で配属されたスタッフについて、重症児（者）病棟の業務に疲弊し、退職もしくは他部署に異動するスタッフがいる。それらの中途採用・異動で配属された看護師が業務上で感じる困難な点があるのではと考えた。そのため、中途採用者、異動者が業務上で感じる困難さを理解し、必要な支援についての研究を行う。
2025-10	アルツハイマー病疾患修飾薬全国臨床レジストリ研究+C14D15	第二診療部長	西山 治子	承認	1	医局	2025/7/14	7/23	7/23		早期アルツハイマー病に対し抗アミロイドβ抗体薬等のDMTで治療中の患者血液よりAPOE遺伝子型を決定、その結果を患者・主治医と共有し、血液バイオマーカー、日常生活機能（介護度等）に関するデータも取得する。特定使用成績調査と有効性、安全性に関するデータを共有し、安全かつ有効なアルツハイマー病治療薬実用を実現する。
2025-11	気管切開チューブ予定外除去時の緊急再挿入に必要な看護師の能力	看護師	増田 良太	承認	1	看護部 3病棟	2025/7/2	7/23	7/23		本研究は、スコーピングレビューの手法を用いて関連論文を体系的に収集・整理し、気管切開チューブ予定外除去時の緊急再挿入に必要な自己効力感、知識、技術、ノンテクニカルスキルに関する教育の現状と課題を明らかにすることである。そして、得られた知見をもとに看護師への教育的示唆を得ることを目的とする。
2025-12	発達障害児の書字算数困難に対するブレインジムの有効性の検討：クロスオーバー試験	児童精神科医師	櫻井 飛鳥	承認	1	医局	2025/7/18	7/23	7/23		ブレインジム（BrainGym）は、脳を活性化させることを意図して教育学の領域で開発された体操であり、26種類の動き（エクササイズ）で構成される。学習に困難を持つ児童に対し、有効性が期待されているものの、先行研究は乏しい。本研究では、発達障害児にブレインジムの動きを実施し、書字算数困難に対する有効性を検討する。

2025年度 審査研究課題等一覧表

番号	研究課題等	職名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2025-13	レケンビ特定使用成績調査 —早期アルツハイマー病患者に対するARIAに関する調査(全例調査)—	第二診療部長	西山 治子	承認	1	医局	2025/7/30	7/31	7/31		当研究課題は、2023年度に承認(No.2023-30)であるが今回、適正使用推進のため、禁忌に該当する症例の有無を早期に察知できるよう、登録票に禁忌該当の有無を確認する項目を新設。また、当該事項の追加について実施要綱にも追記となったため、2025年6月4日に実施要綱および登録票の改訂がなされたため変更許可申請をするもの。 主な改訂内容としては、①、②のとおりであり ①実施要綱 ・5.調査方法(2)症例の登録に「⑨本剤投与開始前(1年以内)のMRI検査実施の有無 ⑩禁忌に関する確認」を追記 ・その他、記載整備 ②登録票 ・【患者背景】に「本剤投与開始前(1年以内)のMRI検査実施の有無」を追記
2025-14	間質性肺病患者(ILD)の6分間歩行試験における理学療法士の関わりを考える	理学療法士	佐藤 史明	承認	1	リハビリテーション科	2025/8/7	8/14	8/14		研究対象患者数を拡大させるための期間延長。 令和7年3月から令和7年7月(当初は4月)までに当院に入院された間質性肺病患者において、理学療法士が6分間歩行試験中の観察から、息苦しさの要因を得て、理学療法を実施し、呼吸困難感の前後比較をVASを用いて評価した患者に対し、治療を行った結果をまとめることで6分間歩行試験における理学療法士の関わりを考える。
2025-15	潜在性結核感染症治療におけるイソニアジド・リファンピシン単剤及びイソニアジド・リファンピシン併用レジメンの安全性と有効性評価の研究	呼吸器アレルギー科 医長	大場 久乃	承認	1	医局	2025/8/22	8/25	8/25		臨床研究実施期間の延長：2027年6月30日⇒2028年6月30日 更に多くの症例を集めるため 調査対象期間の延長：2024年6月30日⇒2026年6月30日 更に多くの症例を集めるため
2025-16	放射線学的に胸膜肺実質線維維弾性症の所見を有する肺MAC症患者の検討	呼吸器アレルギー科 医師	平松 俊哉	承認	1	医局	2025/9/4	9/24	9/24		当院にて肺MAC症による肺感染症の初回治療導入を行った症例を対象に、放射線学的な胸膜肺実質線維弾性症(PPFE)の有症率、臨床的特徴、予後への影響などを検討する。
2025-17	抗アミノアシトルRNA合成酵素抗体陽性の多発性筋炎/皮膚筋炎に伴う間質性肺炎におけるステロイド単独療法 対 ステロイドタクロリムス併用療法の前向き比較試験	呼吸器アレルギー科 医師	大嶋 智子	承認	1	医局	2025/10/8	10/15	10/15		多発性筋炎/皮膚筋炎(PM/DM)は、主に骨格筋や皮膚を障害する原因不明の全身性自己免疫疾患であり、しばしば筋や皮膚以外の臓器にも障害をきたす。特に、間質性肺疾患(ILD)はPM/DM患者の約半数に合併し、生活の質(QOL)の悪化や予後不良に大きく影響している。 本試験は、当院にて2018年4月(30-2)に倫理審査承認を受けている。研究実施期間は承認日から2023年3月31日であるが、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い遅延を余儀なくされている状態である。本疾患は希少疾患のため治療エビデンスが乏しく、本試験の意義は高いといえるため、多施設研究代表施設が研究機関の延長を申請し承認された。(2028年3月31日に延長)今回、多施設研究代表施設が研究組織及び連絡先の変更を申請し承認されたため、当院においても当該変更を申請する。
2025-18	多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究 「特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出—人工知能(AI)診断システムと新規デュピルマブ日本人COPD患者におけるデュピルマブ処方患者の患者特性、有効性及び安全性に対する前向き観察研究	第一診療部長	金井 美穂	承認	//	医局	2025/8/21	10/15	10/15		間質性肺疾患の専門病院・非専門病院にかかわらず、WebベースのMMD診断と診断オントロジーを使用して、本邦における間質性肺疾患の各疾患(特発性肺線維症(IPF)、膠原病関連間質性肺疾患、慢性過敏性肺炎など)の相対的罹患率を調査する。また、間質性肺疾患患者の各疾患分類・疾患進行とベースラインパラメータHRCT画像、HRCTパターン及び病理画像の関係を明らかにし、臨床アウトカム(診断、疾患進行、治療効果)予測モデルを作成する。さらに間質性肺疾患の中で進行性の表現型を調査する。なお本研究は、2021年7月(2021-04)に当院において承認済みである。
2025-19	デュピルマブ日本人COPD患者におけるデュピルマブ処方患者の患者特性、有効性及び安全性に対する前向き観察研究	院長	白井 正浩	承認	1	医局	2025/10/3	10/29	10/29		慢性閉塞性肺疾患(COPD)において、吸入3剤併用療法を施行しているにもかかわらずコントロール不良のCOPD患者に対する増悪抑制・呼吸機能改善が期待できるCOPD治療薬として世界ではじめて承認された生物学的製剤がデュピルマブである。本研究の主な目的は、日本の実臨床患者集団の日常診療におけるデュピルマブの評価・並びに第3相ランダム化試験の有効性及び安全性データが日常診療にどのように反映されるかを検討することである。本研究では、日常診療におけるデュピルマブの有効性、安全性及びPPRO
2025-20	2026年 即時型食物アレルギー全国モニタリング調査	呼吸器アレルギー科 医師	大嶋 智子	承認	1	医局	2025/12/15	12/24	12/24		2001年世界に先駆けてわが国で実施された「食品表示に基づくアレルギーを含む食品に関する表示」は、その妥当性を検証するために、消費者庁研究事業として全国モニタリング調査を3年毎実施している。2023年の調査ではクルミが牛乳を上回る第2位の原因食物となり、特に幼児・学童期において新規発症例の増加が確認された。 前回調査より3年目の2026年、全国調査が行われることとなった。
2025-21	呼吸器症候群サーベイランスの判定基準に関する研究 —「重症心身障がい児(者)施設向け呼吸器症候群サーベイランス(案)」の判定基準の精度検証と新たな判定基準の検討—	感染対策室副室長	高山 直樹	承認	1	感染対策室	2026/1/13	1/15	1/15		本研究の目的は、重症心身障がい児(者)施設において、呼吸器感染症アウトブレイクを防止することを目的として開発された「重症心身障がい児(者)施設向け呼吸器症候群サーベイランス(案)」の判定基準の精度検証と、重症心身障がい児(者)施設向け呼吸器症候群サーベイランスの新たな判定基準の検討を行うことである。 研究デザインは後ろ向きコホート研究であり、方法は診療録調査である。2022年9月1日から2025年12月31日の期間において、重症心身障がい児(者)病棟においてFilmArray®でいずれかの微生物が検出された患者(クラミジアを除く)、あるいは、抗原定量検査によるCOVID19/インフルエンザの抗原定量検査で陽性であった患者を症候群、FilmArray®で陰性となった患者をコントロール群として、単変
2025-22	慢性下気道感染症に対する低用量長期マクロライド療法の治療効果の検証：重症心身障害児を対象とした後ろ向きコホート研究	副薬剤部長	福島 信一郎	承認	1	薬剤部	2026/1/13	1/28	1/28		医薬品供給制限によりクラリスロマイシン、エリスロマイシンの処方継続が困難になった重度心身障害児の経過を確認し、少量長期マクロライド療法(iow-dose, long-term macrolid therapy: LDLP)の投与が慢性下気道炎症・慢性下気道感染症に対する有効性を検討すると共に、供給制限が患者に与えた影響について検討する。
2025-23	結核発病後に進行・顕在化する間質性肺疾患	呼吸器アレルギー科 医師	伊藤 靖弘	承認	1	医局	2026/1/20	1/28	1/28		当院で2013年から2017年に結核の治療を開始した患者で、結核発病後に間質性肺炎が顕在化もしくは早く進行した患者を、結核が発病しても間質性肺炎があまり進行しなかった患者と比較することで、結核発病後に間質性肺炎が急速に顕在化・進行する患者の臨床的・画像的特徴を明らかにすることを目的とした後方視的観察研究である。
2025-24	デュピルマブ日本人COPD患者におけるデュピルマブ処方患者の患者特性、有効性及び安全性に対する前向き観察研究	院長	白井 正浩	承認	1	医局	2026/1/20	1/23	1/23		慢性閉塞性肺疾患(COPD)において、吸入3剤併用療法を施行しているにもかかわらずコントロール不良のCOPD患者に対する増悪抑制・呼吸機能改善が期待できるCOPD治療薬として世界ではじめて承認された生物学的製剤がデュピルマブである。本研究の主な目的は、日本の実臨床患者集団の日常診療におけるデュピルマブの評価・並びに第3相ランダム化試験の有効性及び安全性データが日常診療にどのように反映されるかを検討することである。本研究では、日常診療におけるデュピルマブの有効性、安全性及びPPROを評価する。 なお本案件は2025年10月(2025-19)に承認済み。

2025年度 審査研究課題等一覧表

番号	研究課題等	職名	申請者氏名	判定	開催回数	所属	申請日	審査日	承認日	備考	概要
2025-25	当院における肺Mycobacterium avium complex (MAC) 症の臨床的特徴と経過の検討 —放射線性胸膜実質線維弾性症所見とバイオマーカー—	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2026/1/22	1/26	1/26		肺MAC症の治療においてガイドライン推奨治療とリファンピシンを除いた治療法を行った症例の生活背景・画像・血液検査、呼吸機能検査、細菌検査の各データ等より、肺MAC症診断時のiPPFE様所見の有無及び間質性肺に用いられる血清KL-6・SP-DがiPPFE様所見をもつ肺MAC症の予後バイオマーカーとして使用可能か検討する。
2025-26	当院における肺Mycobacterium avium complex (MAC) 症の特徴-VNTRを用いた解析—(2次調査)「肺Mycobacterium avium complex (MAC) 症治療における排菌経過の検討」	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2026/1/22	1/26	1/26		肺MAC症の治療で使用できる薬物の効果的で毒性の低い組み合わせの探索に当院において治療開始した症例の排菌経過について菌陰性化までの期間、排菌が同一株か否かを既存株より抽出したDNAを用いてVNTR検査、薬剤感受性の変化と生活背景・画像・血液検査データ等を検討する。
2025-27	進行性肺線維症を呈する特発性胸膜肺実質線維弾性症患者に対する抗線維化薬治療：多施設共同前向きコホート研究事後解析	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2026/1/30	2/25	2/25		承認・実施された多施設共同前向きコホート研究「間質性肺疾患に対する抗線維化薬治療実態と臨床経過の調査-前向き観察研究-」において集積された抗線維化薬を使用した間質性肺炎の臨床情報を用いて、PPFを呈した突発性PPFE患者に対する抗線維化薬の有効性及び忍容性を検証することを目的とした。
2025-28	間質性肺炎患者における食欲と運動機能との関連	栄養管理室長	齋藤秀和	承認	1	栄養管理室	2026/2/17	2/25	2/25		当院では、間質性肺炎に対しサポートプログラム入院を提供しており、多職種により患者の状態を評価して、様々な疑問や不安の軽減を目指して支援を行っている。骨粗鬆症予防も支援が求められる要素となっており、対象患者の多くが食欲低下を訴える中で、栄養と運動の介入が重要である。そこで、間質性肺炎患者における食欲と運動機能との関連を明らかにし、このプログラムにおける管理栄養士の介入をより効果的なものとする。
2025-29	箱づくり法の事例検討	作業療法士	伊東 慧莉香	承認	1	リハビリテーション科	2026/2/18	2/25	2/25		当院入院患者の作業療法において、作業遂行の特徴を把握して指導内容および退院後の生活に生かすことを目的に箱づくり法を用いた評価を実施した。その結果を、当作業療法士が所属する箱づくり法研究会における事例検討会にて報告し、評価結果の解釈および妥当性を検討する。
2025-30	児童精神科病棟におけるインフルエンザアウトブレイクへの実践的対策モデルの提案	感染対策室副室長	高山 直樹	承認	1	感染対策室	2026/2/18	2/25	2/25		2026年2月2日～2026年2月12日の期間に、国立病院機構の一つの児童精神科病棟において、感染者9名のインフルエンザ(B型)の集団感染が発生した。行動制限を最小限とし治療環境を維持しながら、IRPsの伝播経路の防止を中心に対策を講じた。職員の発症はなく、患者に問題行動が増えるなどメンタルヘルスへの悪影響もみられなかった。本集団感染事例は今後の児童精神科における呼吸器感染症の集団感染予防へモデルケースとなる。そこで本研究では、本症例の詳細を記述し、児童精神科で実践可能な呼吸器感染症アウトブレイク対策モデルを提案する。
2025-31	「当院より検出された迅速発育菌ycobacterium abscessusの検討」2次調査	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2026/2/19	2/26	2/26		非結核性抗酸菌症は年々増加傾向にあり、わが国では Mycobacterium avium と M.intracellulare の感染による肺MAC症、肺M.kansasii症や肺M.abscessus subspecies abscessus、M.abscessus subspecies massiliense、M.abscessus subspecies massiliense、M.abscessus subspecies bolletiiの亜種が存在し、治療への反応性が異なる。2020年のATSガイドラインによるとマクロライド耐性を誘導するerm41遺伝子、rrl遺伝子の突然変異の有無等、マクロライド耐性に関与するため、マクロライド耐性の有無を確認し、マクロライド感受性症例ではマクロライド系薬剤を含むレジメンを強く推奨している。しかし遺伝子検査はわが国では保険適応外であり、専門研究機関で行われる。このため保険適応のCLSI M24
2025-32	重症心身障害児・者病棟でのACP導入に向けての現状調査	看護師	江本 瑠花	承認	1	看護部 2病棟	2026/2/25	3/25	3/25		本研究は、ACP導入を目的とした学習会を開催し、その効果をアンケート調査し重症心身障害児(者)病棟におけるACP導入の施策とする。
2025-33	子どもから親への暴力や困りごとの実態と支援策を探るインターネット調査研究	児童精神科医師	神谷 亮	承認	1	医局	2026/3/19	3/25	3/25		承本研究は、精神科を受診している児において、児から親への暴力および養育上の困りごとの実態とその経時的変化を明らかにすることを目的とする。特定の診断名の有無を問わず、注意の偏り、多動性・衝動性、対人関係の特性、こだわり行動などの発達特性を多かれ少なかれ有する子どもを想定し、児から親への暴力および養育上の困りごとと家庭内の困難との関連を検討し、支援ニーズを把握することを目的とする。
2025-34	当病棟の災害対策への第一歩 ～倫理カンファレンスを行って～+C36:C38	看護師	石田 友子	承認	1	看護部 3病棟	2026/3/10	3/12	3/12		自部署の災害について検討する研修において、3病棟の防災上の課題を具体的に考察した際、地震発生時に自力で身を守ることでできない患者が、床頭台からの落下物によって負傷するなどの二次被害に遭う危険性がある事が明らかとなり、対策の必要性を感じた。しかしこれまで3病棟では、床頭台の使用法に明確な取り決めはなく私物やケア物品が各々の状況に合わせて置かれている状況にある。そのため本研究はベッドサイドの防災対策をテーマとしたリフレクションおよび倫理カンファレンスを実施することで病棟スタッフの防災に対する意識及び行動の変化を促し、防災の視点が組み込まれたベッドサイド環境を継続的に維持できる体制づくりにつなげることを目的とする。
2025-35	気管切開チューブ予定外抜去時の緊急再挿入に必要な看護師の能力	看護師	増田 良太	承認	1	看護部 3病棟	2026/3/16	3/18	3/18		本研究は、スコーピングレビューの手法を用いて関連論文を体系的に収集・整理し、気管切開チューブ予定外抜去時の緊急再挿入に関する看護師教育の現状と課題を明らかにすることを目的とする。文献検索には、既存データベースに加えCumulative Index to Nursing & Allied Health Literature (CHINAL), Education Resources Information Center (ERIC), PsycINFOを追加する。文献選定の妥当性及び透明性の向上のため、タイトル・アブストラクト及びフルテキスト精査のいずれも、研究責任者と研究アシスタントが独立して実施する。そのため、研究アシスタントを追加する。本件は2025年7月(2025-11)に承認済み。
2025-36	デュピルマブ日本人COPD患者におけるデュピルマブ処方患者の患者特性、有効性及び安全性に対する前向き観察研究	副院長	中村 祐太郎	承認	1	医局	2026/3/24	3/26	3/26		慢性閉塞性肺疾患 (COPD) において、吸入3剤併用療法を施行しているにもかかわらずコントロール不良のCOPD患者に対する増悪抑制・呼吸機能改善が期待できるCOPD治療薬として世界ではじめて承認された生物学的製剤がデュピルマブである。本研究の主な目的は、日本の実臨床患者集団の日常診療におけるデュピルマブの評価・並びに第3相ランダム化試験の有効性及び安全性データが日常診療にどのように反映されるかを検討することである。本研究では、日常診療におけるデュピルマブの有効性、安全性及びPROを評価する。本件は2025年10月(2025-19)に承認済み。研究機関等の改訂による変更実施の参加のための申請。